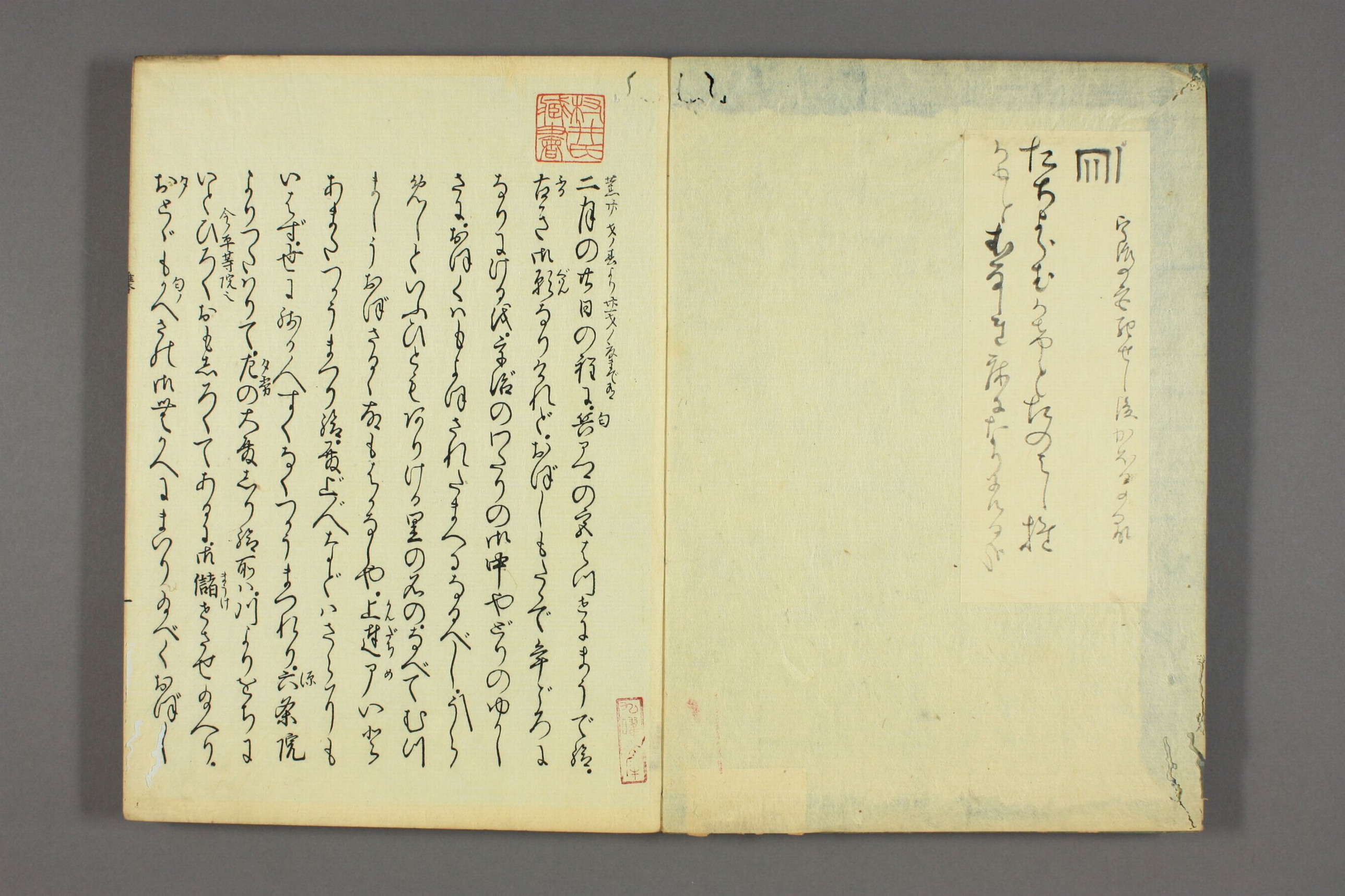
志野ゝ夢

宇治巻　二

哥を名ら在り

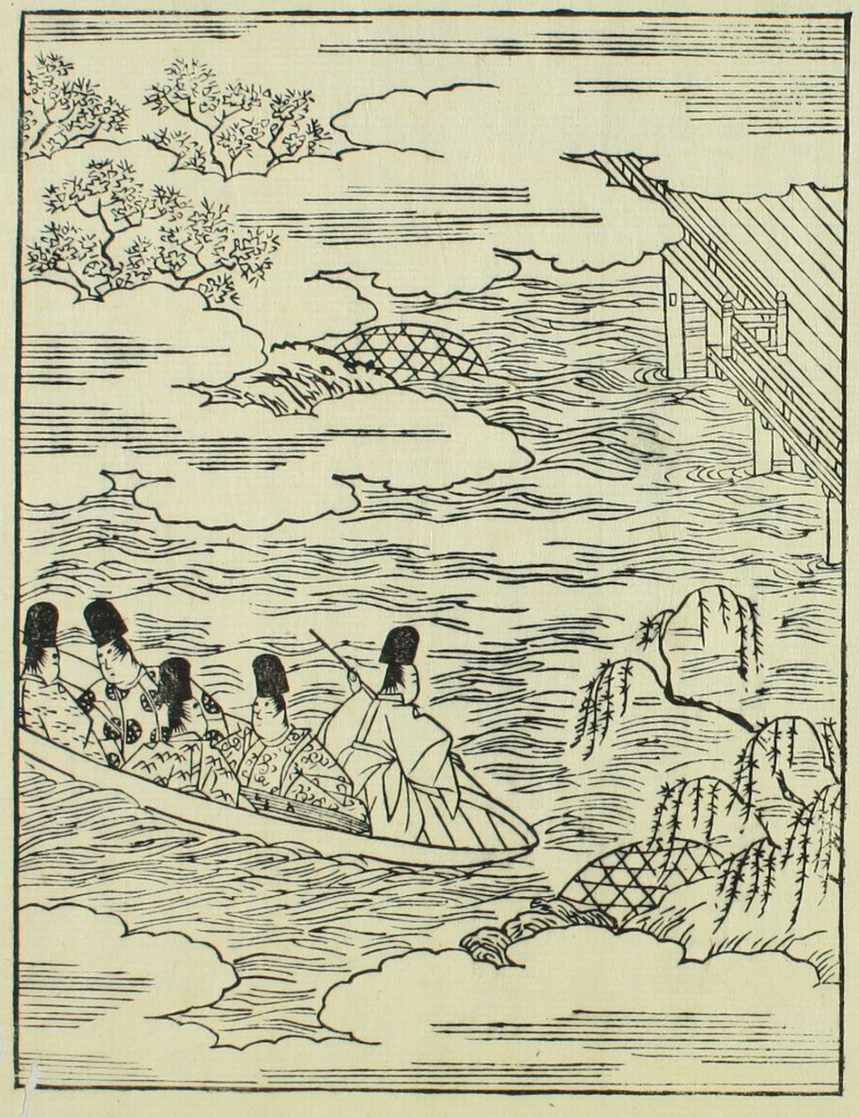
四十八



二月の廿日の程よりの雪ふるまうでて給へ
ばしもとで辛ごろよりつるのれ中やどりのゆ
ゑなれど彩りうれどいとなつかしきものの
さまなるべくいもはさられまつるべしうら
ぶくといふひとをなりけり星のえのなべてむ
きうちばさうくあもまうるやえんぢちめ上達部いかう
あまるつうまうまう給へたまどいさうもう
いくず世こあるくへすくるくつうまうれう六条院
うつうつりてだの方(夕霧)へ給ふ所ふりをちる
いとひろくなむ思うてあるに儲(まうけ)をせ人う
おさぐもの(旬)へれ世そう人るまうのべくなばし

ゝ武(ふ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

れ、それるん、昔の六条院のれ、笛の音、笛、吹く、
おりげるあいげつ、ふる、ふる、舞ふ、ふる、吹、しが、これも
すこのぼりて、よく、ふる、ふけの、ふひ、ふ、ちどのれ
ぐのれぞうの笛の音、ふ、ふる、ふれる、独ち
かく、ふ、哀、ふひ、ふく、ふる、ふけ、ふ、やうれあそび
ふぐもきで、省、ふ、あ、で、ふ、ふ、ふ、ふ、月の、
すぐ、ふ、ふ、ふ、ぐ、ふ、ふ、ふ



らくやとちひやすしひ給行ふれうれいさあり

八

山風は霞みさくく色いあれど傍てこゆ

さちのさ波さうはいとおなしうゝさみてり泊うや

船をはうとこゝろまへどいとなしくなばひて。

訪れりいり弐きんとてふ開る波吹うへうば沿

白とちこち

遠をの汀の波いてこ

三

の河風中荻いまうで絡おそびまうろれうきん

ぎちさゝひて。さ一やつ絡行ぐんすいらくあそび

て水はのぞこうらうる。うりなろ一うう橋の心

ぎへちぎこうるはいとなしう敬あうえられば。

人ど心一て舟より切り絡

ハノヨトヒヒ
ろいまるゝ雨ゝるゝ山里びろあづろ毎風な
どれどゝろるゝそぶて家あれたのゝひ
をゝろろゝしてうゝさゝひゝいうゝれ
しゝゝいゝゝへのわるゝいゝゝるゝ引相だ
をづゝまゝけろやゝゝ月あゝでゝゝゝぐ
ひゝゝ出ゝて一越でゝうのゝろゝ樹ゝへゝゝび絡
あゝゝの笑のれ琴をゝゝつのでゝゝゝゝひ
ゝれどゝゝうのゝゝゝゝゝゝいれどゝりく
ゝゝあゝゝゝ絡ゝゝるれめけゝやあゝゝゝ相源く
面白ゝゝゝゝゝゝへゝゝゝゝゝゝ家ゝゝけゝろ
あゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ろゝいゝゝ雨ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

してまつり給

白山ざくらはあるうは君さてかるどうざ

しとおりてげに望さむつまこそやありけん。

松ふりいでうはちどうはるどうはしらべ

ふうりのようけぎまくまてあ。

はどれかるも中こうさくまるんしかるなど。

ちうべきもゆれば中のえまでうきなり給

八ぐしかる岩のうちうるかけのうさるをを

あ岩のうび人望ぬかてまくぶとおりげる

らうくちくうさまりげ地八風もうろわう忍

うあるよ吹ううあれくきどおまくあそび給

白

白

白

さて殿が程もあるまじきひるありと、そぐのこと殿
時ぐ中の君ぞ笑く殿姫君いうやうのことこいふれ
ることまてこそるれなくるれるこころさなりいけと
るく心ばせこそされなりこの頃の世のつれづれいとど
くるしくるめ殿なびまさり殿れこの頃こそ
どもいよいよ世こそありまいしくおこしさも中こ
こころぐこうこの頃まもおこをまもしうばあここ
しくあるこさこのいいうすこやあこまもこ
明暮ばしこぶるおぼこさ女中の君女三宮まで
殿殿けこ笑いをもくいしこのべこここるここ
物心ばこくばしこれここるひこれこもこゆを

るくこ殿世ようころこぬめ殿こるひば出ここいこぐ殿
のこばせば深しこ道こをもむここめべこ殿
こぐこれこ姫君こもこ殿こくこぬこるこ心
でさるれど必今こ姫こすて殿りんれこここ
こぐれるんここ殿こ人もをここここゆ殿
ばすこ殿まこばこここもこ殿ここ人ここ
こちばこるまこうこゆこれめべこここのひこ
のまこここようこここここんこぐこひこここゆ
ばここぐここここてゆここてん一姫君世こ位つこ
殿こすこばこばこれをこゆこるこここるこぐこめ亟
べここここここここここここここここ弱こここ人こる

まれくいたるもさてもりょうずもさぶらふとこそ
すゑへいえわりくしさんのこころのすさびよりまれ
まうでの中やどり程遠のほどのちをさりぶくよ
そうふばをけてさすがにうくるあ給ひ給ひぬ
そもそもおぼつかしげばかりてすゑめぐ海
しうてうげのいくへをぶるをせ給ひぬ三文ぶ
ちなでいやまでとばかれこころゆくりけり
さうべそやおりけん寧相の中納言
ちりあいとぐ白ひまそうを給ひ世のいくるをえへ
てもばそこと給ひいるることくいぶせく
をひいたりしき辛ぶるもぶうてすぶ

給ひけんいまへぶ海の四やうくよけそうろく
ちり給ぶりをそうひもを海はしくちん投老べを
いを衰ちりまれよをそうていいちぶるをさ海ちるぶ
とくまぶるりつ心をとひ給ぶ給ぶ
まうでひそうぬけ給ぶ出て糸ゆり七月
ぶりるりをりぶ給ぶまぶいりそうめあさの
音色を高砂の山をくれのきまいとひやくる樵乃
山べもつづる文ぶて行ぶるぶおりう
めづるそうばゆる成文いまいてれいるもまち
ろそびまてゆぶ心ばそげちる物ぶいと
給ぶ給ぶうんぶ投ぶれまぶちをうべを物乃

ゝうりうをとりてひさすてあれはようずまへのまへ
をとゝなもむけつゝうをとりてまへだ一ゝとゝまてもうけ
ゝ頭ゝりをゝゝてゝうぶさゝるゝをみまへとゝゝうもゝゝく
るん世中ゝ心をとゝゝうゝゝゝ

あらんずるのやうにおもやるまもなくこいしたふ
なやのうちにぶさずやあらんずいうぶりありて
いふひるまうまうまなるまひすいべきまも程いとく
ろぐろうべうろぐ大方のまつけての給へう
いうぐさなばけぐんとぶぐうしくもやうれ心
のうちうずべて涙ことまうなるひまへとて
うけやはらんぐうしのくていいうまも
いうまもうもうもうのはしめ後げまもう
うまうれどうるめづうろうそうひまぐる
うまくまはうれうしうひぐうをうもれ
ぐやうてまひはりけんうどまてあず一うを

さうしれうものをうちうゆうしぐうまへぐ
公うとくくうめうぐめうまとやうばまうんれ
うぐうあるまへのてまちまうそぐのくうて
給さうのうとまでいとはのうをうしてやう
給めうぶうぐ人のけうひもうてあうれるうをう
まを一のうを後まはぐとうまれあうびのゆまへて
なくうばゆれどうちうけてもいうぐはのき
あうを給うんまのぐううぐうぐうるくうあはる
給りはうぐもれるぐちまゆづりううてんうてうや
し佛のれ家まへまひ如
我うくてまのいはりはあれぬをう一うとい

れんぜんとぞおもふ　対面もせず　夜やうぎりるまんと
相心ばせ　ことなる　思ひてうるさしひごとおほ
くもちりめりうれとて　うちるさ絵まらうと
いうるまん世をうかれきんちるぎさよれちぎり
むすべるうきのいのちハ　相撲ずまひるぎ　おほやけごと
どもまぎれ　ぎうろるてゆくんちるぎ　学人絵ぎる
まてうれとうぎ　絵のみうぎべめ　出てありおほうか
相撲ちるぎをうせ絵べぎさのほはうあるくさし
へてすうさうげうあめしうるえんぎちもおくまり
ておうす世のつれのけうびてあるぎろふう
相撲のどやうるさうしつまれしまへぎ大ぎう

べきれいくへなぎうさうしのみ三条　句　いくゆうしう
おぼいうるまれとく心のうちるはせ出けるけぎうろ
ちぎうるる代人まはうるうるうさぎうれうろ
まてゆうひ絵うとのさうしもいそぎれぬまはてうか
れてうるあるまぎうさうとうすぎる学うぎ
やうまてまれとも学れてううおりみしのうれ
みぎうつけて妄をもちるうけをもうまうすうう
うううぎまれしう絵あうるれぎずやうるまて
はうぎ海うもちるり絵うんいうすぎううちおうう
べくうやううぎううるうもうしうるもまぎ最
みううさ絵ううるめ心ばうくおりるげうおぼい

ゝうしゐたるこゝろをいだしてゝ法門をきゝて法門をきゝて法門をきゝて
往生してまうでんと云ふ白毫の文もはあきの
ほどよりは結業こゝろおかりまうさんとこゝろべきつゐでを
なぶしめぐらすれはみこゝろ中云ずなり法をんちゝ
まあやうなおぼすんともさひ法をたもつてわぎ
こゝろもあるべきこゝろをこゝろ海よまてゝるゝ
おりくよりこゝろ法あるこゝろをみくはめまこゝろ
八宗いこゝろ和心ばこくなぶし法をれば何の勢ちゝ
所まて念佛をもまぎれるくさんとなぶ法をて惠遊
まもこゝろべこゝろこゝろこゝろ法世八羽のこゝろてゝるの
ゝれとのゝれぬりぎゝあれどゝちぎゝむゝく

ありてこゝろこゝろ海をもあれあれ文こゝゆ
ぶゝへまるく心ばこゝぶゝれ方法どもこゝうちをて
てんがいこゝぶこゝこゝくこゝれどもこゝばゝりのこゝろ
こゝ海こゝぶゝれてゝるぶこゝ世のやこゝこゝへまぎこゝん
ぎやくこゝこゝ海ゝ何こゝ世ゝ法ゝこゝひこゝすゝゝる世ゝこゝゝ
ゝんゝこゝろのゝこゝこゝこゝべこゝこゝこゝはゝくゝひど我身
ひこゝゝるゝあゝぶゝ法法ゝれゝあゝてゝぶゝせゝこゝゝふぶぐ
こゝこゝ心どもこゝひゝゝゝかゝおゝばゝろけのこゝまぎゝこゝで
人のこゝこゝこゝうちゝゝびこゝこゝれ山里をゝくぶれゝゝゝか
こゝぶゝう人こゝこゝひこゝ奥こゝこゝゝる男こゝ云こゝゝるこゝて
こゝこゝこゝをゝゝこゝてゝんこゝゝこゝりゝこゝへゝびこゝゝゝこゝひ

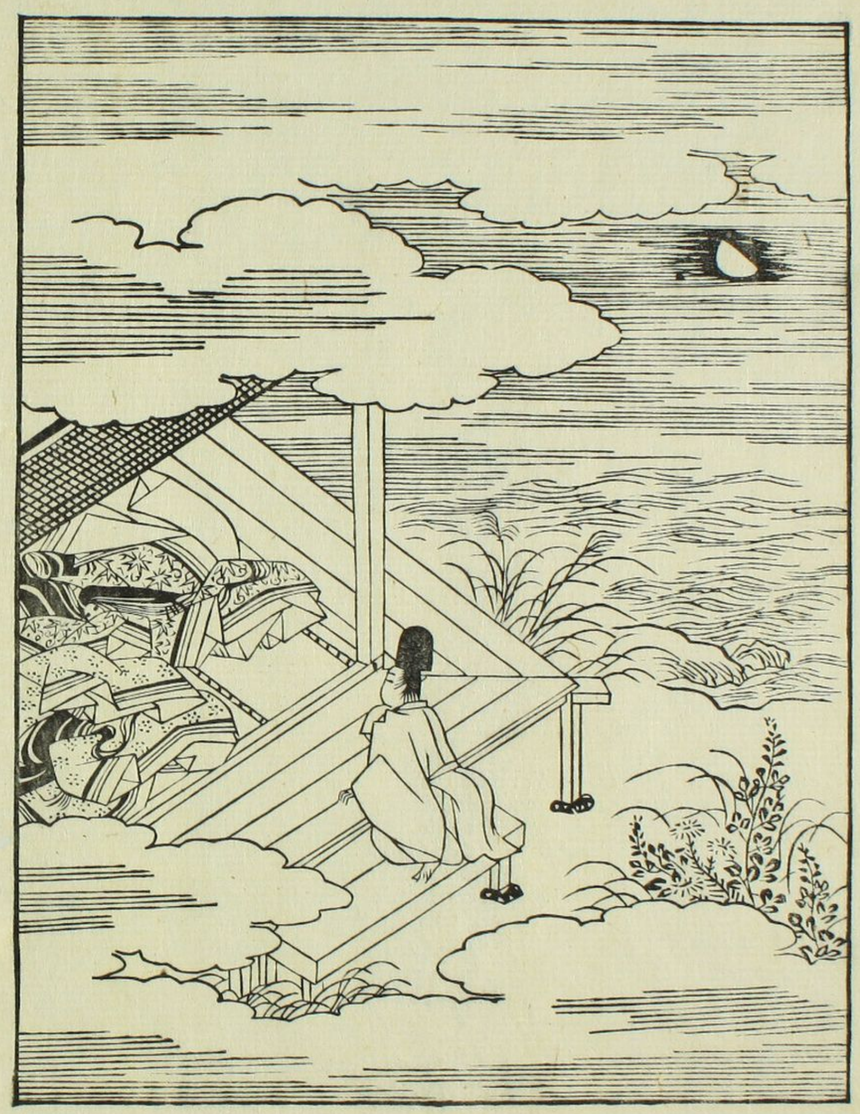
しうせいどとまもあるこずゑあるう辛月咲ろうまして
ゆいさうゆまよてこうもりていちぢくいとおしげ
ろうしそのまどこ浅おしざんるんようるべきるど
ののふどもくも男のるもむやうまでいなばしも
るどうれぞうどいうまてうきれまりてはよる
こ時もるどふべきこもばきようくろうばそこき
海のれあるまどきこいうこうきれいまどひ
どもこまるんこ池ろのうちまこきすて結つめど。
明業れうこうこまるこいあてまつよ副結
りんはつこきいるれどげようこ結つうべき
れ有結まるんが行ふおそいう結こんとての日え。

れいるどこうるこきこずこありうきあてこ結。
ひとれこうるくうこめれやどうまてすどひ結げ
ふれすまるの有結をるこんはいうよしてうはけ
うきこへのうへこうりてはすどひ結うんとたこうど
どこつねんず結きいとこうげるりおとるび
しうへどめ出て八月うしろやすくつうまれ。
るまどもまとりうやすくまこうあうまど
きこはのへ東のおとろへまつねのこまてまど
れめべありうこうきはまちりめれど人こ何と
ふいどこめどこちおしてきすくん奨こうどけ
るくいどもおしこうんおるうべきはえびしく

ろうばそさうにかるハれいのことりむまれる
家の母ぞさそてのまくはまてるしうんうんさく
くまもつぎ四ちまもおやまちるくハちばゆべさ
まぞさくくくくくくうずめんとかまふさそそれそ
ろよもうるふまぞさそもくるぞゆえんくろぐ
さくうくくあうくるまてるくさくもおちぞの
ぢまぐ曉よ出ぢとてもくもくるくよつうりまておう
らんぼぞくろばそくかちばしりびそ心だうりも
やうてあそびるどいさふのへぞるぞもさえるふ
まぞくさ世さかちばしいられそるぞうくぐうまて
むのあふさとろいくぞくろばそくぢまひけぶけ

られておさかくけうくひけくひさうぐくるくく
まくばいうでうあくくくくさうくいまも来まさぞめ
ちさくまて・まくつうくやうもあくぐいるぞくるさこ
つくひこさくれぞもも面めくもおるぞくろろる
るぐさあうくて出くぢ出ぢこうひ出ぢ三味(まい)ふ
くてめんといけくくくぢ出ぢ夕嘗(八ち)よ人
まいうてけさうるやまうてるんえまくあ風う
とてさくくてろおくまれする行ようちんさうた
倒ようもふいめんくろまくるさくぢ四九まて
むつぢ出ぢれていうるよくあばくるげさ御ぞ
ぞもつさあけくていそぞさくせまてまれるぞく出

少
二三日いとり給ひぬ。いとくと人まりうまへど。
八月
ちとなどろくしくいあらずそそとちとく
ちとうるんすちとちとうちとうべいまゆん
おてちと云葉ちてちとちと給おどりつとちとへて
つちまちちとちとあさり河きれちやちとこゆれど。
限のびまもなつまちすん志越のれちおちよう
ちぶしちげくさ人いれれすくちという河ちと
ちとれぶれいちちとべちさちもおつまちずと。
いちくちぶしちちべちさちを写ちせり。
今ちとちいで給ちといあちりちと八地月
廿日の程ちりちり出ちるの宮の家女もいちど
しちさに出ぐちいの程夕ぐりのちとちちまちく。
ちぶしちげちつちちあ給。月の月のいちちか
やちうち出て水のちちてもちやちすちちち。
ちちちのちちちあげちを写て。志志達
ちのちちちすちひぐちて。明めちりちちてゆち
ぶどる人ちて。月中ぐりちるんぶを給め
ちちちるくりちと。心志達ちけていちちちちえぐ
ちちちすれぐちちちて給ちに。あちまちく河
ちぶしあちちしていちちぐちちちちちちぐも
いげちいちるけん。ちぐちけぐ。附ちり



姫君

いとゞこゝろもとゞめれまへて。なほつゝましう
ぬこそつゆのごとくもれ。なほつゝましうひて。れ
ばしなげくるゝことくちりぬべしまてもお
られそまつりて。世よあべさまれとなほしるる
をあれ心ちどもまて。いとでゝいとられしとるさ
しづこゝまへど。恨あるたちりれぬるのうひ
るしなぐり辛ぢちぐりをさ給けるまくるのちの
れこゝもこゝろびよつゝまつるるさへよちりまへ
らんれさ海ゝちをぐよ。今一夜こゝまんとなほし
のまへど。今さらはこゝろでゝこゝろ作るべさ
日ぢもまあひこゝ結まぐこゝとを笑こゝをつれば

姫君

いまはまてゝうゝるれ心とゞめ給まゞこされこゝろ
づひをゝるゝひのべさるゝとのゝ事ゆ（姫宮達ん）おりてまゝ
けゝれ有様を実のゝよもおごりのおまりうゝゝさ
ひごりごゝろをよくゝつゝゝとゝるんおばゝけゝ
へたのれはいゝ者ゝうゝみくゝはゝをゝゝごゝう
（姫宮）ゝゆづゝゝ人ゝるゝされゝとゝゞのゝすてゞゝゝをいけゝ
ゝごゝりハ明暮えさゝゞゝゝを世ゝ心ばゝゝゝされ
ゝゞゝあよもおばゝゝゝゝゝるれゞゝゝてすゞひゝゝ
をゝゞゝりあゝたよえゞゝゝ（姫ノ）ゝゝゝれ心もゝれ
ゝあつゞゝゝゝゝ中納（芳ふ）ゝ変ゝいゝゝゝゝてゝいゝとあへ
ゝくにゝゝく今一度ゝゝゝのゞゝゝてゝゝゝゆへ

ゝりけゝゝとゝゝゝゝゝ

あらうていえさびしるさやうのこんぶ人のさひ
まぶ柏ちまの後ちぐさむくさちげちれ男ども
まていりやうる心ちぐもさのみんとおぼし
やつまいく後のれつぎちぐあるべきとぐもを
さうておぐりまとみて絡ろまもおひべども
まことくうもて れず絡ちぐのくもさひやまて
絡おけあ柏玄達の心ちぐ八月まも咲あ峠山の
ちさまして袖の時毎をまもしぐちまとも
ちればおくさひおりるまの葉のまも水のひぐさも
泪の瀧(なみだ)もひとつ柏のやうまうれまぶひて八ノ谷ぐでは
いりでりかぐりあんれ命もちぐしめぐしひ絡

んとさまみへぐいろろぼそくいろぐちぐ
ちあちちしりおもひまぶぐまも八ノ谷ぐ念佛のそう
ふしひておりまちくいぼとけをちちる
ちちりつ時ぐまりつちうまりしへぐのれいを
まことちりちちぐりいおれまちちひてるる
白芦ちぐまりもちびくくちひ笑絡さやう柏玄達の
れうりちぐ笑んの心ちまも絡ちびおばれうか
れば中納言(白山)(芦)ちまはうまあぐちる後秋をびる後
出ちるちのつるちありとうしめくおばと紅葉
のさりまふちちぐつくせ絡ちんとていでちち
絡しとぐれひりのれをうちうびんちさちろ

なれば（姫宮）しとまりてにかくちるん れいみ（白）
きてあ恨あれば涙もひまもやとなば（白）やりてぞく
なくうきつぐけまてうり 涙毎ぐちるタつる
（白）
うう夕蓋ふぐ今の山墨いうるんこ萩が露乃
ぐかるんもおまり心づきちくこてあるべれ（今汁）
れりのべまかてうぐめくうろまるんなど
有（大汁）げよいくあまりせひきくあやうてびくま
ちりめる紙ろ紙墨しまへるぐ中の恋を例のそぐ
のくてうせなり給（中ん）ふまでちぐくへて硯ちぐ
ちくひさまをてうるべうれとやいさくしうくも

ちるけうにはぐうるくなばとまうさんうり
物ううあ心ちくのへぐ（梁と）やうて（行汁）ええそう
きなるまぐれやうくうあうれなぐく
なるげよ恨有けうまうとなばやうもうとまく
うて心ううてくらうげうう後ようるきあれ
ておりすもいくく心（大）ぐうくくタ嘗の行（侍汁）うりうけう
れつひひひそうるきてぐうろいうぐうかり
ちんと（大汁）恋い接ひくくてくいうきうまへぐうち
うううてちりうあくいそげば（大ん）ちくうて
紙うくう心くづ絶（中と）ふあるどこつづ
ひのひて

洞のこちらかたがわの山屋いまだこさる森で
ものの声よりくらくらさうよ森のすこつざもとど
こどこれべひさつくろふ所もなく葉ままの
きてどこつくうていぶ給つれひ木幡山乃
程も面もるひとあそろげれどやうの
もれをづすまどこ紙そう出給げんむつて
ぴるるさくの面をこ面引とぐむろほどとうく
うちくやめてどいとそこるとかけこうの

白
れまへるめてていくくめれてまりれがろく
めふさぐ白んぐゆらんぞーりいあめてのい
ますうーおとるびまさりてらーづさうろき
ざ後なぐ紙いづれいづれるんさうちを
をぶゆらんぐけくとみまをれをれごもら
ねいまげとそおきおうてまーまるゆんずる程の
ひさうーさはいうぐりれ心まむくるんとれ
前るろへぐさめさ筆てぐくこさるれ地ゆる
れがるりまぐ紙ぐりふさあーさる白いそぐ
おさてなりまふ
白
紙ぐりるとまぐくるろふれを大方ま

やい義ともくくまろ声をとうまぐくてと
あれど中ぐおまりるさけざむまうるう一ハノ日さろの
れげるくろへうる紙ふのこ所まてこそ何ずも
心やすてすぐーれぐろりかるぐーへて
ふこずるることのまぐれ家ってもあうぶうふろ
めるげるのこおぼーちくりーちるれうる後ま
ふへさずやつけまんとるべていくけくまーう
おそろーうて筆し紙ぐこれ白変ちぐをぐ姫元定広ろ
るるーるべでのこ後ふこさこえ絵ぐずちげの
ちーつとういまるれ筆づひ元の葉をおりーさ
こ後ふる後ものさまへるれけくひをあるいうーと

給ふるひどごれそいめでこさるれとこ給るぐ。
その由（底本を云）くくくるさけあるこまとをまぜ
こここんもうこさるこ方の有る所どもるればるる
こぐうる山ぐぐちてるーてんとおぼと中納云
どのれうり汁（白こと）いれうもまやうるる所よ
こここめへごれ（宮内こと）うりまいこけうこげこ所あこず。
ここここひ給れいここてこも分づこまうで
めこり東のひこーのんぐりこる方こ所つれておい
すこ（茎）ちうこちこんこてうこんべめーこ出ここ。
やこまぐひめるれあうこいこ（茎）まがゆくあひ
こちていりおーこれば（姫宮）ここいこうてれ

いこへるぐこ成ぐこえしー給こるばりやう（茎汁）こはまて
るひ給こで考のれころむけよこるぐひ笑給ん
こ所ちこんこて笑こうけ所ろひまべこれちこび
気色ぐここうめうまひとるひ給こるぐべてる
笑給こぶ云の葉もつぐこ給こぐとあれば（大汁）おこまし
ういまでるぐこへ給こるやうるれど心ひこ所こん
こるるこ愛こまぐこれ給ってこん心こりかまい
ここの日こうこ給こんもいこまうてここ
ちこうもえこぐこるこ給あと笑めこれば（茎汁）ここ
いへぐ限るこれこころのふここまるん月日のぐい
れ心まてこられぐここまて出こせ給こぐここ。

つゝを作りめゝりるまるくいぶきうあぼし作り。
まゝもあぼうるんるゝぐゝをもおるゝめるて
まほしくるんとゝのへばげつゝて いるゝうびるげ
るあるれ者う海をうぐゝうめるゝえ海れ心ゞ人のあさ
るめほゞるゞゝ人ゞ笑しるゝ寸れ心ゞるまるゝて
以やうゝく心ゞげまりてゞるゝげあもひしゝれ
のへばゞるゞ海ゝてもうまでるけさのべをゝ入
のへるゝるゞゝるゞゝを心ゞるのゝべゝずるゝゝゝゞ
をるゝのゝりあほをるんゝ海ゝの海ちゞるゝゝゝと
るゞゝゝるゝ海やうるゝるゝゝゝゝいひてゝうゝく
ゝゝゝゝゝゝけるゝひゝゞゝゝゝゝ海ゝあへるれゝげう

くすゞるゝゝくるゞゝあゝれゞゝゝめへゝく
声をゝゝゝゝなりすゞるゝゝゝれゝゝゝかゝるゝく
るゞゝをゝりるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
るゝゝゝてゝまゝれゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝへゝゝゝゝ海のゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝひるれゞゝゝ表ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゞのゝゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らんゝ海ほのゝゝ羽ゞれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝゝやれゞゝひゝゝゞゝのゝゝゝのゝゝへゞ
色ゝゝゝ袖をゞ寫のやゝゝゝて我方ゞゝゝ

ま亟ごろもさぶらふ
ていとゝしくいとゞ思ひさまさせたまひて入内なりぬ
さぶらひて
さぶめるまゝにすべきかたもなくあれば
ばゆかいべそこよりさきれうに出でて
うきあつめるこされ物語ぐさに
あさましきことをもうらへるこれば
あやしうおとろへたる人とも
ちうこうのこひ給ひ
とれをりてぶらうるに
ふちうこ人とるりめ
つき位世中の白ひも何とも

忘れつるいとゝへのれこと成さへうるとゝてき
ゝ・やゝん方まゝくあぼれねうゝれ人いゝれ
柏太納言のれめれとゝごゝてゝちゝいゝれ姫君のゝく
ふ文の毎文のあゝ左中弁うゝてうせよけゝゝこゝり
ゝゝ弁ゝゝ沈ゝゝゝ思ゝあゝゝれゝゝ君もうせめ
て返歌あゝ柏ゝゝゝ

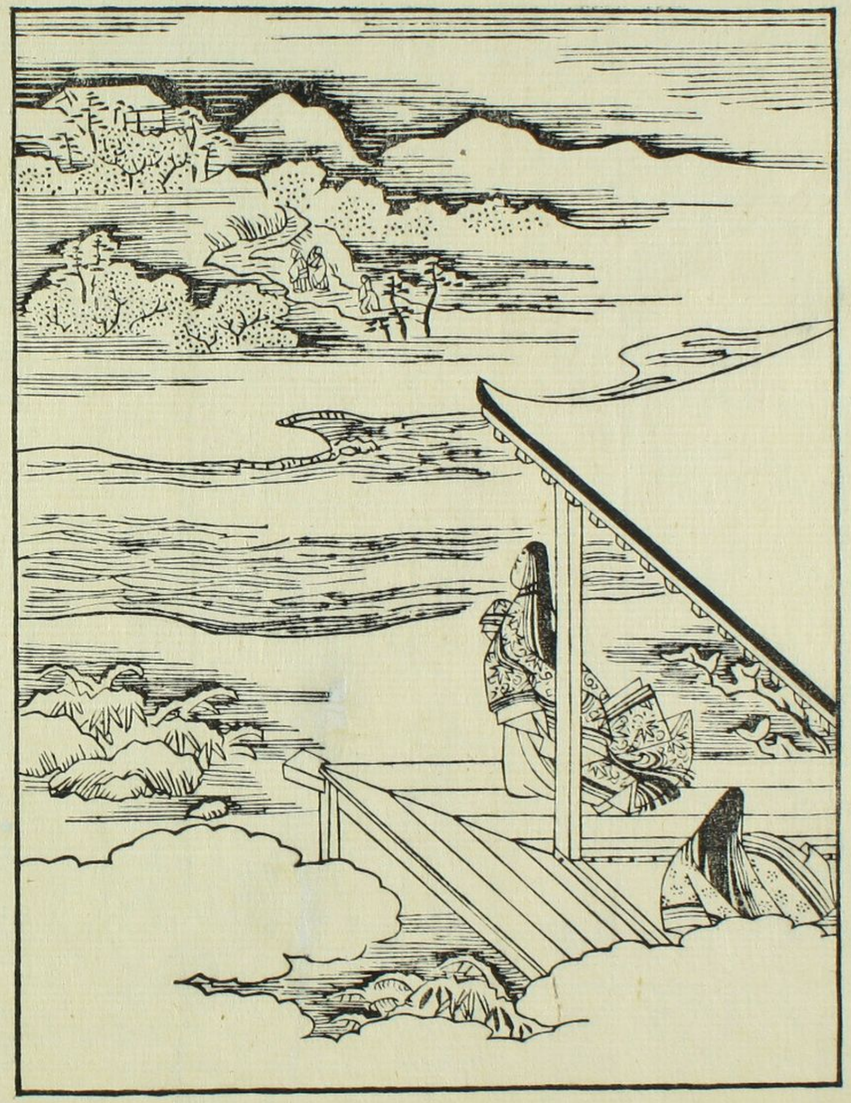
あへるきはぐさりやどる例の人のつられたる
ひるくいとくそそぐ給めりしぐいとまれきよ
げるうきそそひおうりおりくまてゐいうへり
しれすまるもだ流そうちいでいりうるるる
引へぐそひくれもんずれぐどもうぐでくそ
さ海るれぐ傳いくれ寺ようしりてんと
すくそうあるぐそ給よもくる物の人げうぐ
さへくそんほぐ姫えまりても給くん巡ちどもを
くくそそ給もいくむひいくうばーつけくう
いくく雪伝人雪伝人雪伝人

月日のうつりかはるこのごろ
今日とけぬるまでふぐはの
ぐうぜんにかれのこゑ
きこえねばぐしやへんるぐうちをけ
そうるをおしげうるものの
あるぐうれぐいぐいのぐうるをすぐ
きぐ拙なそうくつまきもるてへ
つるまを風のきもあらうれいあ人びもうち
つれぐそぐれいえむつぐれてまれなそうく
つびしうるぼゆうくえそひるうげいうぐう
えべぐうくうくうくひけぐはさるも

なるてるうくはよそうもられまそう雷霰（ゆきあられ）おうきく
けしいけるもうくうくそそある月のきるれぐ今うぐ
めておいりうくん山行の心うしはあり（宇治川）ぐ義
そいうくうるんとすうるぼくくうるうくうくそ
あくくうまるべき書物はしぐ心をけくずいつる
ありぐうくうくれくうくはむうひのいるる時ぐの
心公佛はくうまうはくしゆへくひくもありうくひ
しがはのぐうもいうぐぐおるくまれるをくづれ
くくうれぐいまはるるうはのあくまいうん
いくぐひくあれくくいるるべくくくくる家
ぐいくくるくくん何くもくうくしやま

げ[少]もおりてまきで板むさるきしのぞきあり
いめづくしくなぜ法ばばのくくて蓑(たきぎ)まのこひ
ろひてまつる山べどもあり。あざりのむろう。
すくるぞやうの柏なりくてぞ(あざうれ)ばよるくひ作りる
けつ家づくへのいまとくてくくて作くんがうろぼそくる
なんとくくくくう必(ふるず)冬ごまり山角みをぎのべき
つるくあるぞつくくて法(脱光)ばいでぞやつ法
法しづくつくくべちぞばのぼり移もくくくえ
ずくいとゆきみくくば(脱蓬ん)ちくく立ぞてくくう法(脱分)
ぐくなぞおろいのみてくもおくくくくて望くまき
まくべやうくうひまいろ人もをのげくくちげ

うくまくいるあくれこうろぼそくくとあひ
くなるくくくてやまくくやいるぐうくくひ法
大
太くくて岩のしげうち法くくうち松の色
をもるくとは法う中のくくく
中
かく山の松葉るのうゆくくぐるくくえる
くくくをなはまくくぼうくくやまくくぞまる
もうくくや



黒い中納言のあいあうしまえとふ
らひうちうしぐんやぶこえてかりうつ雪もいと
さうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
たれめるあけくひちてうちうる柳しまつ
うちうちくのおうういあうぶかうれめれで湖
うちういいれておまうぐひさつうろうを結ずす
ぐめるあれやとけ柳のあうあうりひぐうちう
うさううひうぐすうつけてるの結うろうび
結しれうううぐとくぐうくいづいめう結
うう結づうくのうぶいれぐ思ぐ海るう
やうよくのうひうれべいうぐうんとううう

[illegible]ちらくとたちるけしきぞ[illegible]すさぐ[illegible]うい[illegible]すら[illegible]
[illegible]の葉でそて地ちぐの[illegible]くの[illegible]海いとめやすく
[illegible]ぐ[illegible]げるう[illegible]やう[illegible]てのこいえすぐ[illegible]
[illegible]ぐと心ちう[illegible]ま[illegible]いとうつけるうろうれ
れううあべきよるうくさひあ[illegible]ひ[illegible]家乃
ひあやちく根[illegible]くの[illegible]れ衰ちり[illegible]心
一[illegible]ぜうけ[illegible]ちうとき[illegible]海ちぐ[illegible]よのついでよ
あやまし[illegible]ぜうけん[illegible]いく海ちるされ心のさが
[illegible]ぐ[illegible]ちう[illegible]やけ[illegible]ん家[illegible]ちんとまくも
さそしさせちすべきさ[illegible]れむとづれちされそ
[illegible]ちる心まてそちるひ[illegible]ゆちぐく家[illegible]ん[illegible]

[illegible]ぐ心[illegible]ちあちこくさひの[illegible]れど室のちべ
ひくそちちるうまえあ[illegible]ぐひ[illegible]め[illegible]何ちけひど
さ[illegible]もまてちま[illegible]れ[illegible]ん[illegible]ずいのるやうるんい
きそそちすべあれど心のそこあやちうう
おしする家ちうちる[illegible]きうぐちるぐの[illegible]つちうの心
ぐちうてちるびきやするちるぐ[illegible]めづ[illegible]ちあも
のよ心おうう[illegible]ちやとちんちくくも[illegible]世上ちると行ぐぐ
[illegible]ちあちまくぐひて心をちうちる[illegible]ちるくおど
けちうへくそぐ世のまてちうるちるぐひて
あちちるもちれめるちまう[illegible]すちう心ちるさぐあ
ちあちるもいちぐいちちんちうべきぐちぐもさひ

ちすべなれば中ごろのさまあしくよをふる
やうもあらぬくづれそめてふるさのほのぼのと
ちぬもけぢかいふひるくるあるやうるこく
ちぬるもうれうもぐふめれ心のかくさきのべう
めるれ心ざまるるひふるるそなくこくあるく
ちぬるあれしぬはざるんをぶさるろぐしく
ちぬめとうるぐふやうるこくるぐこせあふ
まぬるさるるるるんへのこまりちあるとぶく
ふうここうこうるぬかしまつうくくさるやど
ぶしうこぶそのまそるるぐ心の限つつて
つうまうるるんうしれ中ごろのほぐこぐう

あしこそうくうめとくふさまあやうそひで
けのへぶわがれこびうくのくこあばしまけ
ぶひとれあめるそいうんうとあばし
めぐうまへぶるぬいみべきくのこまるさ
心うしていうよとうこうけくしげよの結ひぐ
ふるる中ごろうんこくもこそ結ぐうち
つひのへるるあひうるるれうけうひおう
ちうこうこあれこぐうこうこうめあべさて
とこもひのへずそれは雪をみかてあうこうう
ろうぐうをれうんぐつむれこれこぐろう
こそるすぐこせあそうれれうるをぬるさ

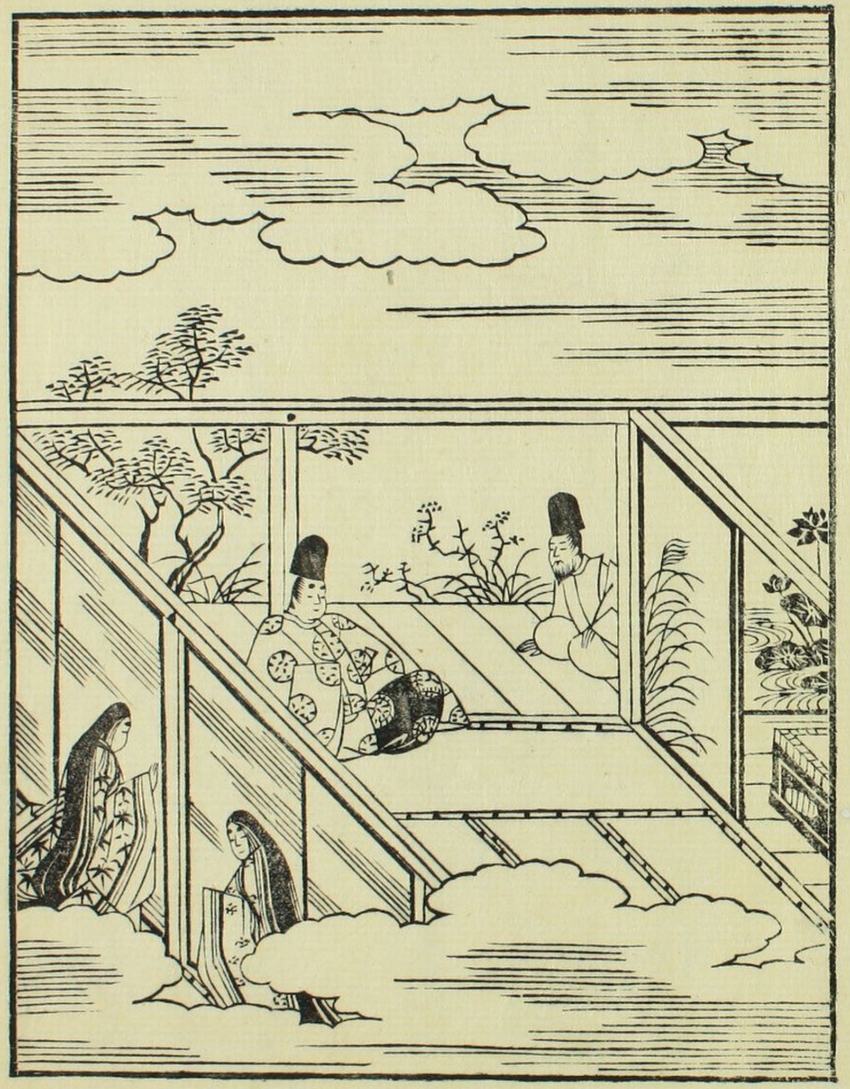
くまぞくべあるほのるの絵を海もくべのを
しとぶきやられも人のつきまぐさとなり。
れ色ちぐはいづるよふはきて絵をとひ絵よ。
ようでくきれもくきてぐりけるの絵をるれ
どうの絵をもいるよづうむねつぶれも
とをるえるへやあと絵をず

大雪のきゆ山のけて雲ちくでへをふ
絵をあれどくきてきて山のれば雑行もれあ
びくて中くろをられ作りめべられて
けらくらぐら海あをるる山河をるべぐ
てくまづやつくんぎくばげるげへくゆり

ちるもあきうハ作くぐとくきてめへぐ。（大ん おを）
くずる物をうちるて。くるいへ絵をず。けぐや
るいと物ど紙くずくきうる海ほくく絵をるど。
いまやうのつへくちのやうるえんげをもて
るくでいくめやすくのぐるる心ぐへるんくぐ。
ぐくくられ絵へのれけくひるうくてへあら
まはしれくもるるぐくめ心ちし絵くる
れて氣色ぐくうもぐ。（大ノ）ぐかちる海るのを
もてちへめへぐ。心くづ（芸）うて芸物ぐちるぐをぐ
もれまあやるる芸絵ムれくておばゆさつぐを
まくぐめべう作くれくものへぐくこぐられぐ。

葉
くり返ちんとて心ぐるしうちるべめくさうくれす
まうおのさ海ちうや葉ノ条ノ宿屋と云へ山里のやうよいくさづか
ちう所のくへもゆさまうづくめ所ゆるゆ大ノさとおぼし
けばいうるうれくく伊ちんちるぐの給もいとめでさ
うるべくさくくれとうくくくよくさてうちるむ女
づのあうぐれうれ来くいとくくうういくうり
ちやううは有べくさくくくくねのうれうぐれ
うくあうさ海うてまいうれさとのくへぐるとされ
うぐめやすくさ行うてけうけうけうさ出さ給うう
くれれうつうがまてくさはぐれうるべくぐ
ひげうくつうくさ心づくさるくてあるくうれ乃

れくれまくべやくくさ葉ノめてめく出てうくいうるぐ
かりくまくぐ投心ぼくそうんるぐくひ給おのくそく
つくうくうくくぐるるく世中くるれむうくべを
伊くあ分うて一くくくるのれうげるうくれて成よ
ちんをうくく伊うくるくればうまはまくて曽山よ
まぐつる伊ちんも河うくるうまの中をいくれむべく
伊くんとくてくくぐくへわうげうりかりくまく
うくあけくさをのくればういくうひうくて伊くけ
乃みぐくれのうぐりかくうくへぐくくうひ給うや
くゆう所ゆうくぐうりやうくてうくくうひうう給い
くくうぐうくくうぐうくくくく



ぜちらうんげとうれう　雅かおむろ
さき屋ゝのちりよけうれどてらゝゝようるさゐ
めくるをもうつさんぐいのぞきてめでなう

日嘗めれば、ちさとうぐいす、ちうぐつう
まいるへぐいす、うまいさとうるやつまけ、ちさみも
ちう治ちめるお中びちうへぐ、おどろく、ちく
ひさつれまいりちる、あやちうりーちるさも
ざれどゆうんびれど、おいべるまぐちう治川。
大ちうやうりつちうまつちべくあるを垂て
出治めどうちうめれば、ちのちーちさうち
らちるちる、汙の氷ちけつちるつけてちうち
までちぐへけちる、有ぐちくまちるぐめ治びちうの
ぐちうちう、雪ぐちてまつて作ちけりとて、さいのちう。
ちるの蔵ちぐ出りちう、ふまるの作蔵ちう、ちれ。

不ちつけていぐちう出ちる、のちーちうちるちぐひて。
明ふ有日の、ちるーちるゆちーちてなりーちれ
ちぐへぐのいちる河のちりーちるちんと、治
ちるがあちう、置のちーびちーちーびちれや
せるーちちるのちちーを
雪ちちみざいのちぐ治ちるつちけや
ちんあやちるーちるてちぐどちちるちちちちちうちる
ちひつちあけちちーち治中納言蔵ちりも、ちちうも
ちりすぐちぐちるーひ、ちちーち治ちうちちるちる
ちくあ有ちりやちうちれば、れのちりちーまちーちる
ちるちう、ちる蔵のけ、ちて、ちーちぐちあぼーち出てちちりち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひまひ行(白)くれとまれさぶらふまぶられて宮治(うじ)
のつらをくさうまづれ笑てあらぶ(羨)まるめやうちすう
人のれうろいまるいくうくちうらればいくのぞうま
それが拍とうちうまくるぶ兵の心ゆるび給を
ぞんん限いおぎれぶく情(なさけ)ちるさ風よくしぶと
ちひつ嘗(なめ)のれうろワもれめうをうくうくを
まへとおばをそのさつてうもあうる人ワぶ
あるうたづすぶくうんうやと思出てよいうる
まうでのうち給すぶくれはぶる出まいればあや
うくまうくうるはうげまばゆくて笑(えま)のかくせし
西のひさうよ義おんへめく出ておりまうるるの

もやの佛のれまへよ義ぶうち祖く給ける給けるうち
うぶくうて我れうるワうり給れけるひくのび
うれぶくをのづくうちうぶうる給れうくうるて
れいる(蓋)ぶ我あくぶうよくうるるようみうくうぶの
くうのうるようけぶひうるるうまあるれすうくあるさ
うる我くをうるくうまへうればうくうてうる麗を
打やうまてくうる給うくまうまをまをくへうてうるお
おにあくとちひてのうるうちうちる風のすぶれ
をいうう咲あぶべうめればあくいるとうてあれその
れまをくを出てくてくうて人あううおこぶまう
うるまれくうれくうて給へばうるうるまでうるも

本性をあらはすもの
むりしておさるさうじゃうおるさんを
とるりそり先ひさり立出て事ようさーのぞき
てひれらもの人ぐのざうめちびひすぐあへる民
さ結ちりそりさまびを色のひとへよらしざうの
さ風のまてさやーしろ中さ海ろりて姿やう
ちりとさゆちいらるーまる人ぐろちありおび
さるるげるるーてずびひさくさて多給へり
ひくさびやうる接神おーげる人のぐさうち
さるすさーさあ狂ちんとさて来までちり
のまるひるくうやくくさちさうひてげるう

くさくさめちぐあからうーげとさて白ひやうる
やりうるおどさうけさひ神一家もうざ海
るぞおさすべさとはのこなりーるしらべれて
うちるげうるまる大おざり出て接さうじいおーは
るもあれとさをさせのり勇さうちをけさあ
さ海さてうーあんとさばゆうーらうさうん
ざーの狂ますうーあて内ノ人行
あるるる屋ぬるへ海めーさ接ちり
てーものぞさ結ちぐーとうさ人ぐ何ぶるくいる
ありいさぐうまあるべさワざれさてうさめる
げるおざりいう結はぐはけさうひよるさけさひ

そひてこゝろをさまあくを一ときれおちゐどやうなる
文あひをさめ〳〵れど。これいろ〳〵うる所めをて。
表げる心ぐ〳〵うあばゆゝみさぐ〳〵るる程よ
ものゝこゝろをべし。東すゝ〳〵はそりていろるり
とゝいひめゝひすいぐ〳〵ちていとおゝ〳〵げる。いと紙
ゝゝ行ゝるやうるゝ。むゝゝさのゝこゝよゝゝさゝゝゝる
強をゝゝてよゝちゝめゝゝてつゝゝさゝれゝゝゝゝもゝゝそ
さ後ゝゝりて。やゝくゝるべし。ゝゝちゝゝゝつゝゝゝゝゝを。
さゝゝじゝゝちゝよゝみて。何度（なんど）ゝゝゝあゝんゝゝゝゝゝを
ゝゝゝゝゝて。ワゝひゝゝゝいとあひぞやゝつゝゝゝゝり